

「玉座」

— 2 稿 —

2025/02/24
山極 瞭一朗

〈人物表〉

御子柴

みこしば
一誠

(17)

高校生・龍滝四天王のひとり

宝

たから
天人

(16)

高校生

金木

かねぎ
雄哉

(17)

龍滝四天王のひとり

青江

あおえ
智樹

(17)

龍滝四天王のひとり

沖

おき
堅信

(17)

龍滝四天王のひとり

男

1. 高校・屋上（夜）

月明かりが輝く。
電灯に照らされ、空席のパイプ椅子が煌々と光る。
その背後の壁面に描かれた不死鳥の絵。
制服姿の御子柴一誠（17）、壁画を漠然と見つめている。
その腕には龍をあしらった龍滝高校のエンブレム。

2. 道（夜）

人気のない通り。

沖堅信（17）が歩いている。制服、龍滝高校のエンブレム。

背後から足音。

沖はちらつと一瞥して、眼鏡のブリッジを押し上げる。そして速度を上げる。

足音も速くなる。

沖、角を曲がる。

足も曲がる。が、ピタッと止まる。

沖が待ち伏せしていて、

沖 「私に御用ですか」

宝天人（16）は沖に対峙し、ニヤリと笑う。その頬には深く痣が刻まれている。

沖 「宝天人、宝さんの弟ですね」

天人 「沖だな」

沖 「いかにも」

天人 「玉座は俺がもらう」

沖 「四天王を殺して奪うということですか」

天人 「先に奪ったのはお前らだ」

沖、くすつと笑う。

天人 「何がおかしい？」

沖 「尊敬こそすれ、誰も宝さんを殺さない」

天人 「でも殺された。それが全てだろ」

沖 「復讐、ですか」

と、眼鏡を外し、放り投げる。

沖 「天人、ふつと口角をあげる。」

天人、ぎゅつと拳を握る。駆け出す。

3. 高校・外観（昼）

老朽化した校舎。

4. 高校・正門・外（昼）

『龍滝高校』の校名板。落書きが施され、文字がぼぼ見えない。

5. 高校・屋上（昼）

空席のパイプ椅子と不死鳥の絵。

青江智樹（17）、御子柴の胸倉を掴み、壁に押し付ける。

御子柴、ぎゅつと拳を握る。

青江 「殴れよ。宝さんを殺ったのは俺だって思ってたんだろ」

御子柴、ごくりと息を呑み、そしてゆっくりと拳を開く。

青江 「御子柴」

御子柴 「……離せ」

と、青江を突き飛ばし、襟元を正す。

青江 「お前が殺したんじゃないのか」

御子柴 「俺は守りたいだけだ」

じつと空席を見下ろし、

御子柴 「裏切り者なんて……」

青江、ふつと笑みをこぼして、

青江 「俺たち4人は一緒だろ」

御子柴 「ああ」

青江 「俺は宝さんを殺してない」

御子柴 「わかってる」

すると、金木雄哉（17）が慌ててやって来て、

金木 「沖が……やられた」

御子柴、呆然として、息を呑む。

6. 病院・集中治療室（昼）

ベッドで眠る沖、顔は紅く腫れあがり、様々な医療器具が装着されている。
傍らには割れた眼鏡。

7. 高校・屋上（昼）

青江 「誰がやった」

金木 「目撃者がいた」

御子柴、ピクッと頬を歪める。

青江 「あ？」

金木 「そいつらによると、男の頬には痣があったらしい」

御子柴、ハツとして、不死鳥を見る。

金木 「天人だ」

青江 「くそっ」

と、壁を殴りつける。

御子柴 「復讐か」

青江 「俺らも標的」

金木、徐に御子柴を見やる。

御子柴 「天人……」

すると、男が慌てふためきながらやって来て、

男 「せ、先輩……」

金木 「どうした」

男 「し、侵入者です」

青江、咄嗟に校庭を見下ろす。

男 「頬に痣のある男が……」

青江、舌打ちして、

青江 「向こうからお出ましか」

すかさず出ていこうとする。

御子柴 「青江」

青江、立ち止まる。

御子柴 「俺が行く」

と、男を連れだつて出ていく。

怪しい雲行き。

天人、毅然と立っている。

校舎からぞろぞろと男たちが出てくる。

天人、ニヤリと笑う。

男たちの先頭に、御子柴が出て、

御子柴「天人、久しぶりだな」

天人「ラスボス自らお出ましか」

御子柴「沖が世話になったな」

天人「お前が兄貴を殺したのか」

御子柴「まさか」

天人、屋上を見やる。

金木と青江が見下ろしている。

天人「全員殺してやる」

拳をぎゅっと握る。

御子柴「ここにお前の居場所はない」

固く拳を握る。

静寂が走る。

風が吹き、砂埃が舞う。

御子柴「お前らは手を出すな」

そして御子柴は駆け出す。

天人、走り出す。

御子柴の鋭い視線。

御子柴、天人に右ストレートを繰り出す。

が、天人はかわし、御子柴の脇腹に蹴りを入れる。

よろける御子柴、かろうじて体勢を立て直し、拳を

握る。

しかし、頬に天人の拳が直撃。

男たちは一斉に駆け出そうとする。

御子柴「動くな」

言われた男たちは頬を歪めながらも静止。

屋上の金木と青江はじっと見下ろしている。

天人、御子柴の胸倉を掴む。

天人「先輩、本気出してくださいよ」

御子柴 「俺だけで十分だろ」

天人 「あ？」

御子柴 「他の奴らには手を出すな」

天人 「お前らの中に、兄貴を殺した奴がいる」

御子柴 「誰も宝さんを殺さない」

天人、御子柴を殴る。

御子柴、じりっと渗む唇の血を拭って、

御子柴 「どうすればお前の気持ちが収まる」

天人 「全員殺せば終わる」

御子柴 「それはさせない」

天人 「お前の許可は要らない」

と、拳を握りしめる。

御子柴 「お前に玉座を渡す」

天人 「は？」

御子柴 「奴らは全員お前の仲間になる。仲間を殺すことは許され

ない。玉座、奪いたかったんだろ」

と、天人の胸倉を掴み、

御子柴 「内部からの方が、宝さんを殺した犯人を探りやすい。違

うか」

天人 「犯人はいないんじゃないのか？」

御子柴 「俺はそう信じてる」

天人 「お前にメリツトは？」

御子柴 「仲間が無事ならそれでいい」

天人 「目的の為なら俺は仲間も殺す」

御子柴 「全力で止める、天人」

と、ぐっと顔を近づける。

天人は離れようとするが、あまりの力の強さにでき

ない。

御子柴 「宝さんを失った痛みは等しい」

天人 「……お前に」

御子柴 「殴れ」

天人 「あ？」

御子柴 「俺を倒せば、龍滝のトップ就任にも説得力がある」

天人、舌打ちして、

天人 「信じたわけじゃない」

御子柴、ニヤリと笑う。

天人、御子柴を殴る。

その場に突っ伏す御子柴。

9. 高校・屋上（昼）

ぼつぼつと雨が降り始める。

天人、入る。その後ろに御子柴がいる。

金木と青江は不服そうに天人を見つめている。

天人、パイプ椅子にどかっと腰掛ける。背後に不死

鳥の壁画。

御子柴、天人を見つめて、ひとつ頷く。

（おわり）